

● 廃校跡地を活用した高齢福祉のまちづくりを視察

日本版 CCRC (高齢者が健康な段階で入居し、継続的なケアを受けながら終身で暮らすことができる生活共同体) の先駆けとも言われている、廃校跡地を活用した「那須まちづくり広場」を視察しました。旧小学校内には、スーパーやレストラン、民宿、カフェなどがありつつも、必要な介護サービスが敷地内で提供でき、サービス付き高齢者住宅や多世代住宅なども完備されていました。私は、南区内の小学校跡地の更なる利活用の参考にし、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けていけるまち泉北の実現に向け取り組んでいきます。

● 有名デザイナーとのコラボで取り組む団地再生を視察

大阪府営住宅をはじめとするたくさんの団地が泉北にあります。団地の設置者である、大阪府や UR、大阪府住宅供給公社などが、しっかりと設置者として責任を持ち、居住者の声に耳を傾け、維持管理に努め、建て替え等をスムーズに行わなければなりません。しかし、夢洲やうめきた開発にうつつをぬかし、出資団体の顔色をうかがい、バランスシートしか目に入らない有り様です。私は、堺市住宅まちづくり審議会副会長として苦言を呈し続けてきましたが、それだけでは「埒が明かない」との思いから、まちびらきから 50 年を経過してもなお、人気が高い団地「横浜市洋光台」を視察しました。洋光台では、住民同士のコミュニティを重視した団地のリノベーションが進められています。基礎自治体として、住民コミュニティを重視した団地再生に取り組む様、関係機関に今まで以上に働きかけていく決意です。

● 図書館のあり方検討のため、『ちえなみき』を視察

私は文教委員として、中央図書館の移転建て替えを強く働き掛けていますが、先日、北陸新幹線延伸を控えた敦賀駅前にオープンしたブックカフェ「ちえなみき」を視察しました。古来より、人は書物から様々な事を教わってきました。先進的な取り組みを視察し、見聞を広めつつ、中央図書館の移転建て替えの決断を強く迫っていきます。

● 65 歳以上の全住民へ訪問活動を行っている金武町を訪問

長寿の島、沖縄県金武町は、1 中学校 3 小学校で構成される、大変小さな町ですが、町は地域包括支援センターを直営で運営し、65 歳以上の全ての町民を対象に年 1 回以上訪問活動などを行う「ポピュレーションアプローチ (集団全体を対象として働きかけを行い、全体としてリスクを下げる取り組み)」を行い、高い評価を受けています。2025 年、南区民のお 2 人に 1 人が 65 歳以上となります。誰もが安心して暮らし続けていけるまちをめざし、金武町のような手法を採り入れ、フレイル予防のフロントランナーをめざしていきます。

● モンゴル国立馬頭琴交響楽団の演奏会をお手伝い

日本とモンゴル国交樹立 50 年を記念し、モンゴル民主化の象徴である国立馬頭琴交響楽団がビッグ・アイにやってきました。教科書で馴染み深い「スーホーの白い馬」に出てくる馬頭琴の生演奏に合わせた朗読会を実現し、1000 人を超える近隣小学校の児童が耳を傾けました。防衛費の増大が平然と議論される危うい時代だからこそ、次代を担う子どもたちが、隣国の異文化に触れることから、違いを認めつつ、平和な北東アジアを築いていってくれることを期待し、黒子に徹します。

● 島守の塔を訪れました

都道府県の役割を放置し、コロナ禍で苦しむ大阪府民の命を軽んじているのでは無いかと感じる事が多い昨今ですが、国内で唯一の戦場と化した沖縄で、県民に「生きる」と説き、住民の為に軍部とも渡り合った、最後の官選沖縄県知事島田叡氏終焉の地を訪れ、手を合わせました。地方政治に携わる者として、市民の命を守る気概を新たにしました。

編集発行 小堀セイジ事務所
〒590-0117 堺市南区高倉台 2 丁 19-17
TEL 072-292-8619
FAX 072-292-8679
mail koboriseijioffice@gmail.com
https://kobori.cdp-osaka.jp/
Twitter @sejikobori

公式 HP



Twitter



「聞く・伝える」は 議員の基本です。
ぜひ、みなさまのお声をおきかせください。



堺市議会議員 小堀セイジ 市政報告 SEIJI REVIEW vol.82

堺市議会議員

小堀セイジ

大阪公立大学 都市経営研究科附属都市経営研究センター 研究員

～プロフィール～

■ 堺市立高倉台小 ■ 堺市立三原台中 ■ 大阪市立扇町高校 ■ オーストラリア国立ディーキン大学
■ 大阪市立大学大学院 (修士) ■ 大阪公立大学 (博士後期課程在学中)

● 堺市監査委員 ● 文教委員会委員 ● 公共事業等関係費適正化調査特別委員会委員
● 堺市住宅まちづくり審議会副会長 ● 堺市同和行政協議会委員 ● 堺市地域包括ケアシステム審議会委員

寒中お見舞い申し上げます

堺市議会議員の小堀セイジです。2007 年の春、最年少 (当時) の市議会議員として初当選させて頂き、以来約 16 年に渡り、走り続けて参りました。これも偏に、ご指導下さいましたみなさま、お声をお聞かせ下さいましたみなさまのお陰と、衷心より感謝申し上げます。大阪の成長の柱として掲げられてきた「カジノ IR 頼みの大阪万博」は、指摘し続けてきた「土壤汚染」などがようやくメディアなどでも取り上げられる様になり、「ギャンブル依存症」などにも注目が集まり始めました。大阪府民・市民の財産を切り売りする、まやかしの「身を切る改革」ではなく、真に市民に寄り添った堺市政への転換が求められています。私小堀セイジは、障がいの有無に関わらず、誰もが安心して育ち、学び、歳を重ねても、住み慣れた地域で暮らし続けていける「安全・安心のまち」をめざし、市政改革の先頭に立つ決意です。引き続いてのご指導賜りますようお願い申し上げ、年頭のご挨拶と致します。まだまだ寒く、コロナも終息を見通せておりませんが、どうかご自愛下さい。

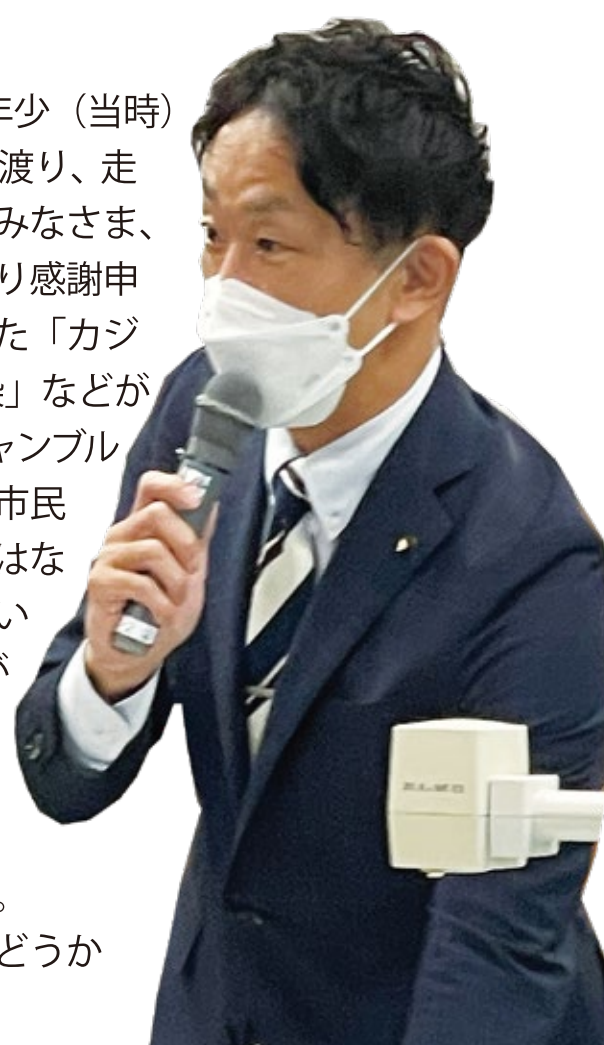
● 「堺市議会議員 小堀セイジ 青空市政報告会」開催のお知らせ



日時：2 月 23 日 (木曜日・祝日) 午後 3 時から

場所：泉ヶ丘駅南口 (スターバックス側) タクシー乗り場付近

ゲスト：枝野幸男 衆議院議員



議員活動のご報告 SEIJI REVIEW Vol.82

市長公約の府市連携は不安でしかない

府営住宅の建て替えが公表されてから、最大で12年の遅れが生じています。また、住棟の廃止はされたものの、取り壊されることなくそのまま放置され、薄暗く治安に不安を覚える場所もあります。団地は既に廃止されても、団地内通路（とは言っても、何十年と私たちは普通に道路としてそこを歩き生活してきました）は私たちにとって生活道路ですが、灯り一つなく、改善を要望しても、「廃止が決まっている団地にお金はかけられない」といった返事しか返ってきません。市長公約である「大阪府との連携（府市連携）」により「G7貿易大臣会合」の夕食会場に堺市が選ばれたと市長は胸を張りますが、大臣の夕食会より「住まい」だと私は考えますがみなさまはいかがお考えでしょうか？

市長の言う「府市連携」は「不安でしかない」というのが私の感想です。私は、大阪府営住宅の設置者たる大阪府に対し、居住者、近隣住民の立場に立ち、物申す市長であって欲しいと切に願っています。

市長公約である『なかもず駅の乗り継ぎ改善』はどうなった？

昨年9月17日、南海中百舌鳥駅に東改札口が新設され、御堂筋線の改札までの距離が約50m縮まりました。これが、市長が選挙公約で大見得を切った「乗り継ぎ改善」でしょうか？選挙の際には、あたかも南海のホームから地下への直接移動を可能にするが如き発言をしながら、今や民間に「駅前広場活性化」のアイデアを募りだす始末です。大規模工事を伴う改良には時間を要しますが、御堂筋線のダイヤを改良するなど、乗り継ぎ改善でやれることはたくさんあります（例「新金岡」行きを「なかもず」行きとするなど）。大阪市との水平連携を唱えながら、市長は、大阪市が100%出資する大阪メトロとの交渉に自ら出向いたことは一度もありません。私は、乗り継ぎ改善を更に進めるよう手厳しく批判しました。

新型コロナウイルスの感染見通しが甘かった堺市

コロナに感染された方の在宅生活（私は治療のない在宅放置を自宅療養とは呼びません）を支援するため、議会が求めて創設された「自宅療養等応援パック」が第6波の際、必要な方に行き届かない事態を招きました。その理由は、堺市が1日あたりの配送件数を200件と見込んでいたことです。実際には、最大270件の配送が必要な日もあり、対応が不可能に陥りました。また、最大200件の見込みと説明しつつ、配送業者には検査検体回収業務も併せて委託しており、検査件数が増えると、この配送能力は更に低下することが容易に予想できます。市は、私の指摘を受け、「想定を見誤った」と認めたことから、それ以上の追及は避け、今後に備える様求めましたが、堺市の見通しが甘かったことは看過できません。

コロナ禍に『黒字』に転じた堺市立総合医療センター

人口あたりのコロナによる死者数は大阪府が全国第一位であり、府内で、大阪市を上回る人口あたりの死者数を記録しているのが堺市です。こうした状況にある中、堺市立総合医療センターはコロナ禍にあって累積赤字を埋め、累積黒字を6億円計上しています。大阪の患者受け入れ件数は民間病院が公立病院を上回っているとの声も出ており、検証が必要です。まずは、黒字に転じた事実を議会で公表させ、旧市民病院の本来的役割を今一度思い返し、市民の命の砦となる様求めました。

堺市は「健康長寿のまちづくり」を本気で進める決意はあるのか？

医学部及び大学病院の移転計画の公表以来、私は高度医療を提供する医療機関が身近に存在する意義は大きいとしつつも、健康寿命を延ばし、住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けていけるための（介護予防やフレイル予防）取り組みの重要性を説き続けてきました。堺市は、健康遊具などの設置を積極的に進めてはいますが、遊具を置くだけでは、運動習慣のない方に、ご利用いただけません。運動習慣のない方にも身体を動かして頂くきっかけや、お一人暮らしで孤立しておられる方などが集い、おしゃべりなどを楽しめる場の創出を求めてきました。こうした「健康長寿のまちづくり」には、保健師などの市職員が、地域に出向き、住民の行動変容を促していく、息の長い取り組みが必要ですが、堺市の積極的な動きが見えず、本気度が伝わってきません。掛け声倒れになることがない様、強く求めました。

守ろう！豊かな自然



監査委員として工事監査を実施

南部丘陵では、残土の埋め立て等により、豊かな自然環境が破壊される事象が見受けられます。先の記録的豪雨や新型コロナウイルスなどの感染症も自然破壊を原因とする地球温暖化ではないかと指摘する識者もいます。府の土木事務所が埋め立て等の許可を出せば、堺市は手が出せないと言うのではなく、現場を見て歩き、住民の声に耳を傾け、市民に寄り添った対応を関係部署（大阪府は上級官庁ではない！）に求めていくべきと強く進言しました。

国から見れば、私たち基礎自治体は末端かもしれませんが、住民か

から見れば一番近い行政府です。その気概を持ち、自然環境保全に力を尽くすよう求めています。



「重度障害者医療費助成」の制度化を求める意見書を可決成立させました

豪雨被害について



昨年9月2日、堺市は歴史的豪雨を記録し、陶器観測局では時間雨量99mmを記録し、南区三原台では床下浸水などの被害も出ており、指定避難所である三原台中学校でも浸水被害が出ました。被害を受け、現場での立ち合いを担当部局と行った結果、側溝の上流部分、排水桝などが土砂で埋まっている事を確認しました。南区には7小学校、4中学校、1支援学校が内水氾濫浸水想定区域に位置しています。まずは本年1月中旬に三原台中学校の側溝や排水桝の清掃等を実施する事を確約させました。また、浸水被害が予想される学校園は避難所ともなり得る場所であることから、定期的な点検等を教委の責任において実施する様求めました。

児童の荷物の軽量化について

一人一台の学習端末（タブレット）など、児童の持ち物は重量化の傾向にあります。市教委は、児童の持ち物の平準化を図るなどの指示を出してきましたが、対応は学校任せになってきました。私は、週1の登校の見守り活動を通じて、児童の荷物の多さを実感してきたことから、これを取り上げ、今一度全校に指示し、児童の荷物の軽量化を図る工夫を凝らすよう求めました。



体育における更衣について

男女一緒に更衣に不快感を訴える児童の声を受け、調査を行った結果、小学校低学年では、体育などの際、男女一緒に更衣を行わせている学校が複数存在することを確認しました。私は、原則男女別に更衣は行われるべきであり、カーテン等で仕切るなどの工夫や見守る人員のやりくりを行うよう求めました。



支援教育について

百舌鳥支援学校の老朽化、及び百舌鳥・上神谷両支援学校の過密化について改善を求める保護者有志の要望が出され、それを基に質疑に立ちました。私は支援を必要としている子どもが増加している今、抜本的に解決を図るべく、3校目の支援学校の整備と、支援を要する児童生徒への対応スキルのアップを求めています。全ての子どもの育ちと学びの応援団長の心づもりで先頭に立って議論していきます。

中学校給食の実施に向けて

2025年から中学校給食がはじまります。これに先だち、安全に配膳ができ、喫食ができる環境を整備することは市の責務です。

小1も中3も教室の面積、机のサイズは同じである一方、身体サイズは著しく異なり、荷物の量も違います。少人数学級を視野に、まずは過密解消を図るため、荷物棚などの整備は給食開始までに確実にを行うよう求めています。

